

北摂地域のポテンシャル



伝統的なエネルギー
づくり (日本一の里山)



東谷

台場クヌギ



菊炭



中谷

多田銀銅山
(猪名川町Webサイト)



西谷

ソーラーシェアリング

21世紀型の
エネルギーづくり

「北摂里山地域循環共生圏」構想の策定（2021.2月）

北摂里山地域循環共生圏

【主な課題】

1. 里山林の荒廃
2. エネルギーの外部依存
3. 地域交通の弱体化
4. 地域のコーディネーター不足

里山の放置林化、林業の担い手不足、木材利用の低下
地域の自然エネルギー活用計画の必要性

住民の高齢化、交通弱者の増加、公共交通の利便性の低下
市町域の枠を超えた計画策定や関係者間の調整の必要性

【課題解決のための地域資源と実践活動】

里山の保全と森林資源の利活用

資源

菊炭利用の伝統、パッチワークの里山景観、北摂里山大学（人材育成制度）、環境NGOや森林ボランティア団体の支援制度、県有環境林

【予定事業】 木質バイオマスの熱利用

【期待される成果】

- ・森林ボランティア等を活用した間伐・択伐、植林、木材の加工と販売、薪・チップの熱需要の開拓
- ・間伐等の支援を必要とする山主と森林ボランティア等のマッチング

自然エネルギーの活用

資源

（株）宝塚すみれ発電と（一社）西谷ソーラーシェアリング協会による市民出資の太陽光発電の実績、生活協同組合コープこうべや甲子園大学栄養学部との連携、宝塚エネルギー2050ビジョン、酪農家、ごみ焼却発電（国崎クリーンセンター）

【予定事業】

- ・ソーラーシェアリングの拡大
- ・乳牛ふん利用によるバイオガス化発電の検討
- ・ごみ焼却発電電力の公共施設での利用の検討

【期待される成果】

- ・遊休農地の活用、市民農園としての利用
- ・太陽光発電の災害時・非常時の電源としての利用
- ・バイオガス化発電の事業化
- ・ごみ焼却発電電力の公共施設での利用



ビジョン

地域の小さな自立定住圏へ

- ・里山の保全
- ・木質バイオマスの利活用
- ・エネルギーの地産地消
- ・地域交通の整備による住民及び観光客の利便性向上
- ・地域通貨の発行によるサービス間の連携
- ・交流人口や観光客の増加
- ・地域経済の活性化



地エネと環境の
地域デザイン

出所（写真とロゴ）：神戸新聞社

地域交通システムの構築

資源

能勢電鉄（株）、いいな里山ねっと（川西市・猪名川町・豊能町・能勢町による地域振興）、のせでんアートライン（2年ごとの芸術祭）等の沿線でのイベント、妙見山や一庫ダム等の沿線の観光資源、妙見の森パーベキューテラスでの菊炭の利用

【予定事業】 能勢電鉄沿線の二次交通の検討

【期待される成果】

- ・能勢電鉄沿線の主要地点へのグリーンスローモビリティ及び電動アシスト付自転車の導入による住民の利便性及び観光客のアクセス力の向上
- ・観光客の増加による地域経済の活性化

サービス間・市町間の連携

資源

北摂里山博物館構想（川西市、猪名川町、宝塚市、三田市、伊丹市の里山資源の活用）、地エネと環境の地域デザイン事業（神戸新聞社）

【予定事業】

- ・地域通貨発行の可能性の検討
- ・個別事業及び事業間の連携による経済効果の分析
- ・地エネと環境の地域デザイン協議会での発表

【期待される成果】

- ・木の子プロジェクトの実施による地域通貨での間伐材等の購入補助
- ・地域通貨を活用した経済波及効果の分析
- ・他の地域団体（地銀、エネルギー会社等）との連携

「北摂里山地域循環共生圏」の構築

- 森林管理により排出される木材をチップ化し、地域のボイラー燃料に供給すること（エネルギーの地産地消）によりカーボンニュートラル資源を有効活用。
- 2022年7月から(一社)徳島地域エネルギーが新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）の実証事業として森林の伐採を開始。



北摂里山地域循環共生圏（木質バイオマス利活用モデル）の
イメージ

環境学習拠点（バイオマスラボ）

- (一社)徳島地域エネルギーが神戸市北区有野町に「バイオマスラボ」を建設。
(2022年12月開所)
- 木質バイオマスボイラーやチップ乾燥システムの展示・実演、伐採による里山の保全、木質バイオマス熱の利用方法などを紹介。
- エネルギーの地産地消について総合的に伝える環境教育の拠点として整備。



北摂里山地域循環共生圏の今後の課題

エネルギーを生み出す森の育成



- チップ燃料の需要増による森林施業の加速化
→ **バイオマスエネルギーの安定供給**
- 里山保全（エネルギー供給）の地域産業化
→ **雇用の創出**
- 若返った里山の利活用
→ **地域コミュニティの活性化**

地域課題の
統合的解決

再エネを活用する事業者育成

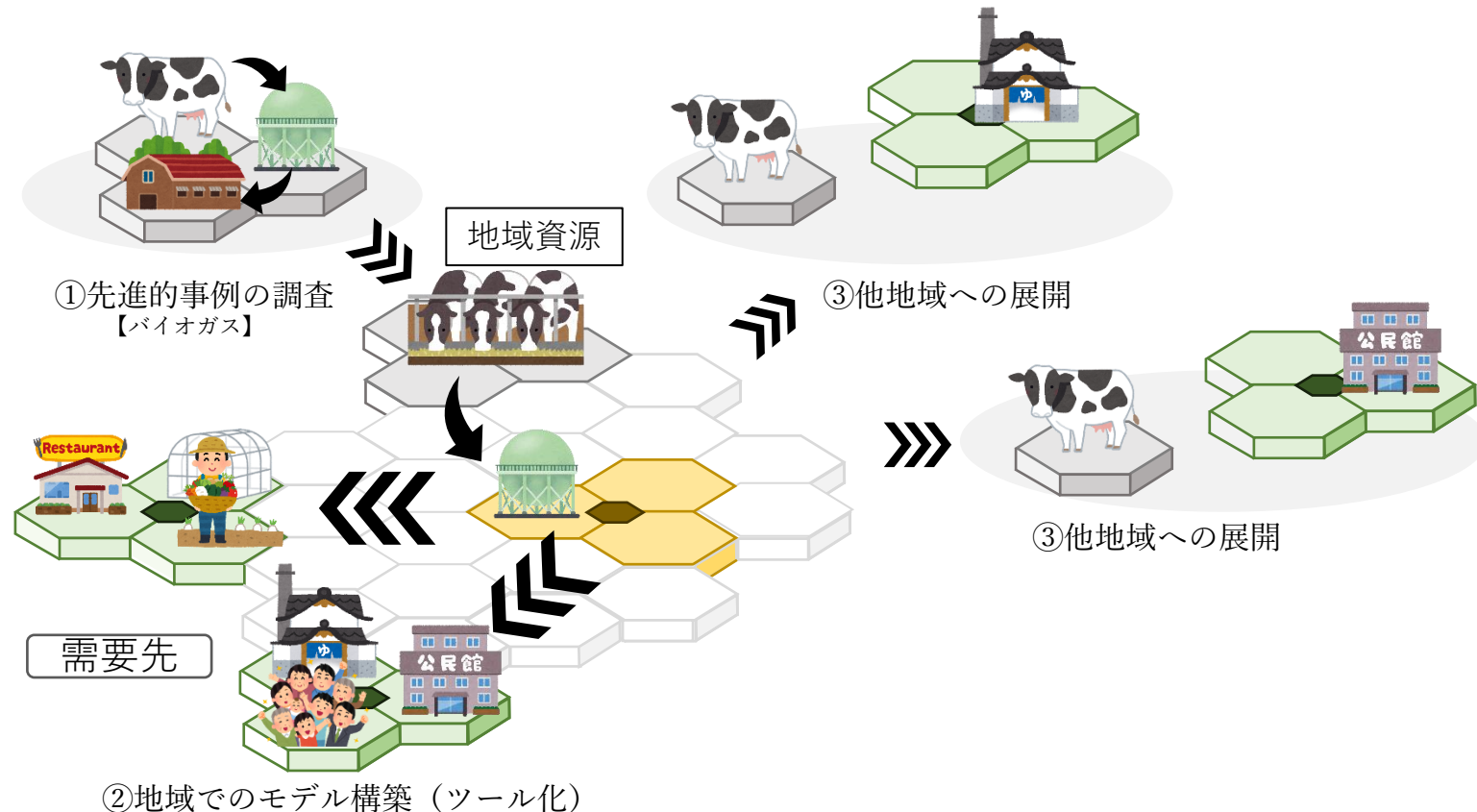
- 企業のバイオマスボイラーの導入拡大
→ **企業の脱炭素経営への転換**
- 燃料資金の地域内環流
→ **地域経済の活性化**
- 都市と農村の地域間交流の活性化
→ **関係人口の増加**



再エネ資源を活用した地域循環共生圏モデル構築事業【新規】

(R5予算：3,561千円)

- 太陽光、バイオガス、木質バイオマスなど多様な再エネ資源を活用した「地域循環共生圏」の総合モデルを確立する。
- 2023年度は、家畜排せつ物を利用したバイオガスについて、先進事例、コスト・メリット等を調査し、地域循環共生圏の構築に必要な情報を検討・ツール化を進める



➡ 新たな地域循環共生圏づくりへ